

資料提供

提供年月日： 令和3年(2021年)6月4日
部局名： 健康医療福祉部
所属名： 感染症対策課
担当名： 感染情報企画係
担当者名： 田村・足立
内線： 3632
電話： 077-528-3632
E-mail： ej00@pref.shiga.lg.jp

オウム病の集団発生疑い事例について

令和3年4月6日に同一職場内において発熱等の症状を複数名の者が呈している旨、保健所に相談があり、保健所が調査しましたところ3月中旬から4月中旬にかけて発熱および肺炎等の症状が複数名いることが判明しました。

保健所による調査および国立感染症研究所に診断確定のための検査を依頼していたところ、6月4日に検査結果が判明し、6月4日16時30分頃、医療機関の医師から、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、東近江保健所にオウム病（4類感染症）の患者の発生について届出があり、同日、同一職場内の1名からも発生届がありました。

今般、オウム病の発生届出があったことから、オウム病の患者可能性例^{*1}7名、患者疑い例^{*2}6名を含むオウム病による集団発生（疑い）となったためお知らせします。

なお、4月16日の患者発生以降、新規感染者はなく、感染拡大の恐れはありません。

（^{*1}：発熱および肺炎の症状あり、^{*2}：38度以上の発熱の症状あり）

1 患者概要

- (1) 東近江市 女性（60歳代）
- (2) 東近江市 女性（40歳代）

2 経過

(1) 患者①

- 4月16日 患者発症（発熱（38度）、咳、肺炎）
- 4月27日 医療機関を受診
- 4月30日 医療機関を受診
- 6月4日 国立感染症研究所による診断確定のための検査が陽性と判明
- 6月4日 オウム病の患者疑いの診断が確定
- 6月4日 医療機関から保健所にオウム病の発生届出

(2) 患者②

- 4月4日 患者発症（発熱、咳、肺炎、呼吸困難）
- 4月8日 医療機関を受診
- 4月26日 医療機関を受診
- 6月4日 国立感染症研究所による診断確定のための検査が陽性と判明
- 6月4日 オウム病の患者疑いの診断が確定
- 6月4日 医療機関から保健所にオウム病の発生届出

3 症状

発熱、咳、肺炎等（現在は、軽快している。）

4 発生（届出）状況等

	確定等（届出）	年代	性別	居住地	発症日
1	確定例（6月 4日）	60歳代	女性	東近江市	4月16日
2	確定例（6月 4日）	40歳代	女性	東近江市	4月4日
3	可能性例	40歳代	男性	—	3月19日
4	可能性例	40歳代	女性	—	3月20日
5	可能性例	40歳代	女性	—	3月24日
6	可能性例	50歳代	女性	—	3月29日
7	可能性例	50歳代	女性	—	3月29日
8	可能性例	50歳代	女性	—	4月1日
9	可能性例	50歳代	男性	—	4月5日
10	疑い例	50歳代	女性	—	3月22日
11	疑い例	50歳代	女性	—	3月23日
12	疑い例	40歳代	男性	—	3月26日
13	疑い例	50歳代	女性	—	3月27日
14	疑い例	20歳代	女性	—	3月31日
15	疑い例	50歳代	女性	—	3月31日

5 集団発生疑いの調査経過

4月6日 事業所から保健所に感染症発症疑（発熱、咳、肺炎）による相談

4月7日 保健所が事業所に調査を実施したが原因は不明であった
保健所から事業所に一般的な感染対策を指導

4月26日 医療機関から保健所にオウム病発生疑いの連絡

4月26日 保健所から事業所に感染対策を再指導

5月 6日 保健所が事業所を再調査

6月 4日 医療機関から保健所にオウム病の発生届出（1例目）

6月 4日 医療機関から保健所にオウム病の発生届出（2例目）

6 オウム病の発生届出状況（2006年以降）

2010年6月 1名（大津市）

2016年4月 1名（大津市）

7 その他

患者の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていただきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。

8 オウム病について

別添参照

別添

《オウム病について》

➤ オウム病とは

オウム病はオウム病クラミジア (*Chlamydia psittaci*) に感染することによって引き起こされる病気で、主にオウムなどの愛玩用の鳥からヒトに感染し、肺炎などの気道感染症を起こします。

➤ 症状

1～2週間の潜伏期間を経て、発熱、咳（通常は乾性）、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの症状がみられます。軽い場合は風邪程度の症状ですが、高齢者などでは呼吸困難、意識障害など重症化することや死亡する場合があります。

➤ 感染経路

インコ、オウム、ハト等の糞に含まれる菌を吸い込んだり、口移しでエサを与えたりすることによって感染します。

➤ 予防のポイント

- ・鳥との接触を避け、むやみに触らないようにしましょう。
- ・鳥を飼うときは、ケージ内の羽や糞をこまめに掃除しましょう。
- ・鳥の世話をした後は、手洗い、うがいをしましょう。
- ・健康な鳥でも保菌している場合があり、糞便や唾液中に菌を排出することで感染源となるため、注意しましょう。
- ・鳥に口移しでエサを与えないなど、節度ある接し方をしましょう。

【県民の皆さまへ】

鳥を飼っており、治りにくい咳や息苦しさなどの症状を感じたらオウム病も疑って医療機関を受診し、鳥を飼っていることを医師に伝えましょう。